



石巻復興支援ネットワーク
私たちの軌跡
活動報告書2020



～ Memories 10th ～

2021年7月7日発行

発行：特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク

〒986-0806 宮城県石巻市開北3丁目1-8

Tel:0225-23-8588 Fax:022-774-1469 Mail:info@yappesu.jp

HP:http://yappesu.jp

FB: https://www.facebook.com/yappesu

Twitter:@yappesu



代表あいさつ

特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク
代表理事 兼子 佳恵

いつもやっぺすを応援くださるみなさまのおかげで、震災から10年やっぺすは活動を続けてくることができました。

あらためて心から深く感謝申し上げます。

設立当初は、不眠不休での活動中、日々起こる様々なことに泣いてばかりで、心身ともに疲れきっていて、温かな気持ちを受けとれる余裕がなく、多くの方々にご迷惑をおかけしたこともありました。

団体を立ち上げてからの数年間は、本当に自分に自信がありませんでした。

学歴や職歴にコンプレックスを抱え、無力な自分だと自分に対して呪文をかけ、ないものにばかり目がいき、他人と比べては落ち込んでいた日々でした。

しかし、支えてくれた家族やスタッフ、やっぺすの輪をはじめとする多くの仲間たちが、子育ても介護も看護も全てが私の人生の中のたいせつなキャリアだと認めてくださったおかげで、今の自分があることを心から感謝しています。

これまでの10年の活動の中で、特に力を入れてきた「私らしく生きる」が叶えられるまち」という地域づくりの為の学びあいの場づくりをこれからも継続していきたいと思っています。

「A place for learning without hurdles」(ハードルのない学習の場)

やっぺすは、地域のみなさんの実家のような温かく緩いつながりをたいせつにしながら、ハードルのない学びあいの場を創り続けていきます。

自身の病気や子育てや介護、日々の生活に疲れている女性たちがなにか始めたいなって思った時に、できない理由や他人と比べてできていない自分に囚われないように。

そして、女性のみなさんにも自分が責任をもつ覚悟と変わる為のはじめの一步を踏みだしていくきっかけとチャンスがつかめる準備に下記の3つを実践してほしいと思います。

- 1 ありのままの自分を大好きになってほしい。
- 2 置かれている環境や居場所は自分で創れるようになってほしい。
- 3 常に学ぶことに貪欲で自分自身に問いをたて、対話してほしい。

これからの10年は「被災者」という重い荷物をおろし関わってくださっているすべてのみなさんと共に「普通の誰もが」やってみたくことが受け入れられ、それぞれができる時にできる人ができる事につながっていける地域づくりに邁進してまいりたいと思います。

今年の12月にやっぺすには新しい代表が誕生します。引き続きご指導ご鞭撻いただけますようお願い申し上げます。

石巻の現状

1. 被害状況 (1)被害概要

石巻市 HP より

地震概要 (気象庁発表)

- 発生日時 平成23年3月11日(金) 14時46分
- 震央地名 牡鹿半島の東南東約130kmの三陸沖
(北緯38度06.2分/東経142度51.6分)
- 深さ 24km ○規模 M9.0 ○震度 震度6強(石巻市)

津波概要

- 津波の高さ 最大高さ T.P(東京湾平均海面) +8.6m(鮎川:気象庁発表)
※津波計による最大高さ
- 浸水面積 73km²(H23.4.18国土地理院発表)
※市内の13.2%(平野部の約30%)が浸水
<参考> 被災6県62市町村の浸水面積合計 561km²
(石巻市の浸水面積は全国の浸水面積のおよそ13%を占める)

石巻市の被害の状況 []は全国(R2.12.10 警察庁発表)

- 人的被害 死者数 3,187人 [15,899人]
行方不明者 415人 [2,527人]
- 建物被害 全壊 20,044棟 [121,992棟] ※石巻市の被災住家数は、被災前全住家数の76.6%を占めます
半壊 13,049棟 [282,920棟]
一部損壊 23,615棟 [730,392棟]
合計 56,708棟 [1,135,304棟]
- 地盤沈下 最大沈降 -120cm(牡鹿地区鮎川)
※参考資料:地盤沈下状況・P85参照

避難状況

- 最大避難者数 50,758人(H23年3月17日時点)
- 最大避難所数 259箇所 ※避難所は平成23年10月11日、待機所は同年12月11日をもってすべて閉鎖 (平成23年3月11日17:00撮影)



▲日和山より津波引波時の旧北上川中瀬方向をのぞむ (平成23年3月11日17:00撮影)

東日本大震災の発災から10年が経過しました。宮城県の10年の復興計画も終え、新たに「新・宮城の将来ビジョン」が策定され、「富県躍進！」が掲げられました。震源地から最も近い最大被災地、石巻市では、2021年2月末日時点で死者3,553名(関連死を含む)、行方不明者418名の人的被害を記録しています(石巻市公式ホームページより)。改めて、亡くなられた方のご冥福をお祈りいたします。

10年という月日は早いもので、大川小学校等の震災遺構や伝承施設、避難道路の整備も進み、甚大な被害を受けた南浜地区は「南浜津波復興祈念公園」としてこの春に開園しました。全国の皆様からの沢山の支援が形になってきております。しかし、インフラや建物ができて人もは戻ってきません。東日本大震災が発生する以前、2011年2月時点で162,822人だった石巻市の人口は、2021年3月末日時点で140,068人に減っています。(石巻市公式ホームページより)

子どもや若者、子育て世代では死因の第1位が自殺となっており、不登校率は全国や宮城県と比べても高くなっています。動き盛りの30代~50代の自殺率も高くなっており、地域の未来を担う人材の生きづらさが見て取れます。また、約8,000人が入居する復興住宅では、独居高齢世帯の割合が同市全体の割合の2倍以上も高くなっているほか、入居の経過とともに心身の不調や抑うつ状態等が悪化傾向にあるというデータが出ています。さらに、いまだ収束の目途がたたない新型コロナウイルスの感染拡大の影響が、これらの課題に拍車をかけています。

地域で活動する私達NPO団体も、復興財源の縮小による助成金等の仕組みの減少や、コロナ禍でのコミュニティ活動の自粛等により、活動の継続ができない団体も増えてきています。

このような困難な状況を乗り越えていくために、行政やNPO団体だけでなく、地域に住む住民主体で地域課題にアプローチを行っていく仕組みづくりが必要だと考えられています。



特定非営利活動法人

石巻復興支援ネットワーク

やっぺす!! の歩み

2011



- ・NPO法人設立、認定取得。
- ・復興コーディネーター事業を主に活動を開始。
- ・現在まで続く『やっぺす隊がやってくる!』事業がスタート。(現在は『やっぺすカレッジ』と名称を変更。)

2012



- ・平成24年度東北みらい創りサマースクール実行委員会主催『第1回東北みらい賞』受賞。
- ・内閣府地域社会雇用創造事業『やっぺす! 起業支援ファンド』『やっぺす! 人材育成スクール』を実施。
- ・石巻のママたちによるハンドメイドアクセサリーブランド『Amanecer』の立ち上げ、販売開始。

特定非営利活動法人

石巻復興支援ネットワーク

やっぺす!! とは

通称「やっぺす」こと、「特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク」は、子育てに悩んだ経験から、ママ同士が思いを共有し、気軽に相談できる場所が必要だと感じ、2009年に代表理事の兼子がお母さん仲間とともに立ち上げた「環境と子供を考える会」と、震災後に支援に入った「つなプロ(被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト)」とが共に立ち上げ、2011年12月に法人化した団体です。

「やっぺす」とは、石巻の方言で、一緒にやりましょうという意味です。

被災した私たちだからできること。がんばってではなく、一緒にやりましょう。

同じ目線で、復興するまで寄り添い続けること。そんな思いを込めて「やっぺす」の活動は始まりました。

「私らしく生きる”が叶えられるまちへ”

現在の「やっぺす」は、市民ひとりひとりが支え合い、みんなで課題を乗り越えていく社会基盤をつくるため、企業やNPO、行政等と協働し、女性や子どもを始めとする多様な担い手に学びや活躍する機会の提供とサポートを行っています。

2013



- ・女性が自分らしく輝くためのプログラム『Eyes for future』事業が開講。(～2018年第6期まで開催)
- ・石巻の魅力発掘プログラム『石巻に恋しちゃった♡』事業開始。(～現在まで)
- ・教訓を伝え、親子で防災を考えるリュック『無事かえるリュック』の販売が開始。(のちにシリーズ化し、現在まで展開)
- ・石巻駅前に母子のためのコミュニティカフェ『Café butterfly』を開業。
- ・カナダ式子育てプログラム『NP事業』開始。

2016



- ・2011年の活動開始から約6年間拠点としてきた石巻駅前ビル4階から石巻市元倉1丁目事務所を移転。
- ・『復興公営住宅でのコミュニティ形成支援活動』開始。
- ・『やっぺす! ママのわスクール～つながろう、つなげよう、ママのチカラ～』開講。

2015



- ・APEC・国連防災会議パブリックフォーラム「災害復興時の女性の活躍～地域経済再生の視点から～」にて代表理事兼子が登壇。
- ・平成27年度日本トルコ文化交流会主催『日本復興の光大賞15』受賞。
- ・やっぺすオリジナルラジオ番組『5時です! やっぺ恋』開始。(～2016年度まで)

2014



- ・無事かえるリュックが『第8回キッズデザイン賞』受賞
- ・「石巻地域における地域共同推進及び組織基盤強化」
- ・「地域起業・新事業活動拠点支援事業」『コワーキングスペース』事業開始。(～2019年まで)

2017



- ・『やっぺす! ママ子ども食堂』開始。
- ・『みやぎの女性活躍推進拠点づくり』モデル事業開始。
- ・地方における女性の就労をサポートする『やっぺすスクールこっこん』開講。
- ・国連ユニタール「世界津波の日」における女性リーダーシップ研修の受け入れを実施。

2018



- ・活動拠点を石巻市開北3丁目へ移転。
- ・新拠点を活かして『チャレンジショップ事業』を展開。
- ・やっぺす! 女性のためのプログラム『きらり』開講。
- ・平成29年度総務省主催『ふるさとづくり大賞 内閣総理大臣賞』受賞。総理官邸にて表彰(2018年3月)。
- ・平成30年度経産省主催『女性起業家支援コンテスト 2018』個別支援部門優秀賞を受賞。

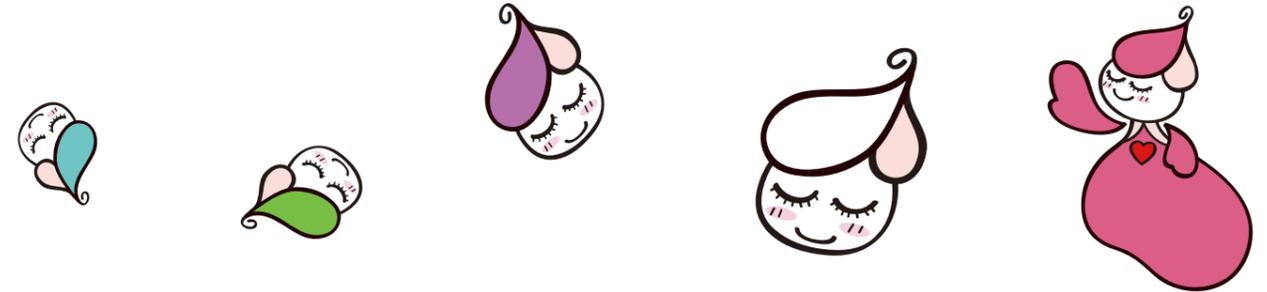
2019



- ・JJCC 助成プログラム『ストレスを抱える女性の自己回復能力向上のための人材育成事業』開講。
- ・女性活躍支援プログラム『green』開講。
- ・『石巻に恋しちゃった♡』事業内の『石恋まつり』がやっぺすの手を離れ市民有志らによって実行委員が運営。実行委員会が発足。
- ・令和元年度内閣府「女性のチャレンジ賞」女性のチャレンジ支援賞を受賞。
- ・令和元年度復興庁「新しい東北」復興・創生顕彰を受賞。

2020年度事業カレンダー

- 4月** 新型コロナウイルスが蔓延し、4月のやっぺす隊は活動を自粛、電話対応、オリジナルのやっぺすドリルを配布。
- 5月** 14日 「歩け歩けin蛇田」を実施
- 15日 兵庫県立篠山東雲高等学校様よりご支援を頂き、「山の芋の苗植えやっぺす」実施。
- 15日～やっぺすママこども食堂は5月15日より新型コロナウイルス感染症対策を行い、時間を区切り再開。食事の代わりにお弁当を配布。
また、ドリームフィールド認定コーチ養成講座受講生に相談員としてご参画頂く。
- 6月** やっぺすママこども食堂は利用者の声を受け5月の条件を面識のある方向士であれば各回もう1組参加可能(各回2組)とし開催。先月同様、お弁当を配布。
- 10日 やっぺす「ミニ遠足」実施
- 7月** ママこども食堂は面識のある方向士であれば3組までとして開催。先月同様、お弁当を配布。(現在までの体制となる)
- 1日 石巻市より業務委託を受け、石巻市子育て包括支援センター「いっしょるーむ」がオープン。
※現在は名称を「いっしょるいっしょるえきまえ」と改称。
- 1日 パブリックリソース財団様の運営するオンライン寄付サイト「Give One」に掲載。
- 20日 ドリームフィールド認定コーチ養成講座～フォローアップ講座～開催。
- 23～26日 やっぺすママこども食堂「夏の特別編」開催。
- 8月** 中央大学補助教材「白門」にてご紹介を受ける。
- 4日 前年度に引き続き国連ユニタール広島主催「津波防災に関する女性のリーダーシップ研修」をコーディネート。
- 25日 中央大学中澤ゼミの学生と復興公営住宅の住民さんがオンラインで交流。(「震災・仮設・復興住宅」について)
- 9月** 6日 株式会社日清製粉グループ本社様主催3回連続講座「ふれあいキッチン・パン教室」開催(9月～11月)
- 10日 カゴメ健康講座開催。
- 14日 昨年から行われている、ドリームフィールド認定コーチ養成講座修了式開催(8名全員合格)/第1回ネットワーク会議実施。



- 19日 地域女性の一步を応援するスクール事業「Gift」受講生募集説明会開催。
- 29日 歩け歩けinまちなか実施
- 10月** 3日 地域女性の一步を応援するスクール事業「Gift」がスタート。
- 5日 令和2年度東松島市女性連絡協議会 移動研修に代表の兼子が登壇。
- 8日 カゴメベジタブル講座開催。
- 9日～10日 メンタルヘルスアドバイザー認定講座開催。
- 11月** 1日 やっぺす収穫祭開催。
- 8日 兵庫県立篠山東雲高等学校様の生徒と復興公営住宅の住民と交流。
- 15日 池上彰先生をお迎えし、「寄付で市民活動を支えるイベント!」開催。
- 19日 やっぺす遠足～芸術鑑賞の旅～開催。
- 24日 メンタルヘルスアドバイザー認定講座修了式開催。(10名全員合格)
- 12月** MDRT Foundation-Japanさまより「2020QOLG (クオリティ・オブ・ライフ・グラント)」に選定。
- 15日 令和2年度柴田町男女共同参画推進事業「男女共同参画・多様な視点から考える地域の防災・減災～復興支援団体の視点から～」の講師として、登壇。
- 23日 ママこども食堂クリスマス番外編。
- 1月** 7日 新年顔合わせ会開催。(やっぺす隊)
- 17日 復興公営住宅の住民さんと1.17追悼イベント参加。
- 26～29日 レジリエンスコンサルタント認定講座開催。(8名全員合格)
- 2月** 17日 宮城県・特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク・みやぎの女性活躍促進連携会議主催のみやぎの女性活躍推進サポーター養成事業「Gift」を開催。
- 23日 第2回ネットワーク会議実施。
- 27日 地域女性の一步を応援するスクール事業「Gift」修了式開催。
- 26日 雀踊りやっぺす開催。
- 3月** 13日 「やっぺす! 活動報告会in石巻」開催。

2020年度（第10期）事業について

第10期は、管理部門を除き13の事業を実施しました。事業は3本の柱で構成しています。1つ目の柱である「女性の活躍推進」では、宮城県からの補助を受け、地域の女性の一歩を応援するスクール事業「Gift」を開催しました。ワークショップや講座、地域企業・NPOでの職業体験を通し、年代や職業、学歴や病気の有無などの条件に関わらず「自分らしい生き方」や「自分らしい働き方」を考え・学び・活かしていくことを目的に、インターンシップコースとスキルアップコースの2コースの選択制で実施し、インターンシップは6名が5か所の企業やNPOで職業体験を修了、スキルアップコースは14名が修了し、地域の女性のエンパワーメントに貢献することができました。

昨年度から引き続き、JJCC助成プログラム「ストレスを抱える女性の自己回復力向上のための人材育成事業」では、女性の能力がさらに活かされる地域社会につなげることを目指し、ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループの助成を受け、ストレス対処の手法を提供できる人材を育成するためのスクールを開講。昨年度のコーチングの有資格者8名に続き、メンタルヘルスアドバイザー10名、レジリエンスコンサルタント8名を養成し、今後の活動のサポートとネットワーク構築のため新人講師のネットワーク会議を設置し、2回開催しました。プログラム最終年度となる次年度は、養成された新人講師を中心に地域にストレスケアの手法を広げていきます。

2つ目の柱である「子育て支援」では、コミュニティスペースバタフライにて、やっぺす！ママこども食堂を継続して開催しました。昨今のコロナ禍の影響を受け、1組限定や少人数での複数回の実施、調理した料理の提供からお弁当の配布に切り替える等、試行錯誤しながらの開催となりましたが、沢山の親子が参加され、開催総回数：153回、総参加人数は700名（大人：318名 / 子ども：382名）250組、610名（大人：260名 / 子ども：350名）にのびりました。

また、7月より石巻市の委託を受け、子育て世代包括支援センターいっしょ issyo えきまえ（石巻市ささえあいセンター（ほっとお〜る）内）の運営を開始しました。利用者支援事業・

地域子育て拠点事業・助産師による産前産後「心とからだのトータルケア推進事業」で構成されており、相談支援、情報提供、講座を行うとともに、関係機関との連絡調整等を実施し、子育てに関する不安や悩みを持つ方の負担の軽減を行っています。

コロナ禍で親子からの相談や行政機関等の関係各所からの相談が急増し、それらに対応するべく、12月より新たに「やっぺすハウス（シェルター機能をもつ、貸しハウス）」の運営やフードパントリー事業を開始。各企業様や地域の協力者に支えられ、困難な状況にある親子とともに「今」を乗り越えるための事業が始まりました。

3つ目の柱である「復興支援活動」では、復興公営住宅コミュニティ形成支援事業として、コミュニティ形成と住民の生きがい創出を目的とし、復興公営住宅の集会場・当団体ホールにて、サロン活動やイベント、バス遠足を開催しました。年間66回のサロン活動・イベントを仮設住宅や復興公営住宅の集会所にて開催。のべ1,011名の参加があり、コロナ禍でさらに外出の機会が減少しているなか、住民の孤立・孤独死の防止に繋げることができました。次年度はこれまで一緒に活動してきた住民講師を中心に、さらに多くの場所で開催し、地域住民主体の活動を根付かせていきます。

復興コーディネーター事業では、今年度は135名の社会人・学生らのボランティア活動や視察を受け入れました。コロナ禍で移動自粛の為、足を運ばれる人数は大幅に減少しましたが、各企業や団体が現地の現状を撮影し、多くの足を運ぶことができない全国の皆様に届けていただきました。グッズ販売では、無事かえるシリーズ「ビーンドール」が新たに発売され、ご好評をいただいております。

なお、今年度は3月13日に活動報告会を石巻で実施した。新型コロナウイルスの感染対策の為、石巻会場とオンラインでやっぺすや石巻を応援して下さる皆様をつなぎ、全国のステークホルダーと石巻で活動をともしする住民のべ93名に対し、1年の活動報告を実施し、今後の事業展開につなげました。

石巻復興支援ネットワーク 私たちの軌跡 活動報告書2020

代表あいさつ

p01

石巻の現状

p02

やっぺすの歩み

p03

2020年度事業カレンダー

p05

2020年度事業について

p07



心を整え、そして強くする
ストレスを抱える女性の
自己回復力向上のための人材育成事業

p09

「Gift」を開花させる
女性と社会をつなぎ多様性のある地域づくりを
目指すインターンシップ・スクール事業

p10

創業を目指す方を伴走型で応援する
創業支援事業

p11

外で働けないママたちのために
おうち仕事

p12

石巻から全国の女性たちへ紡ぎだす物語
Amanecer

p13

妊娠期から子育て期にわたって「いっしょ」に子育てを支援する
石巻市子ども・子育て利用者支援等事業業務

p14

ママたちが羽ばたくコミュニティスペース
ママ子ども食堂

p15

やっぺす隊がやってくる！
仮設・復興住宅心の復興事業

p16

外部と被災地との支援ニーズをマッチング
石巻復興コーディネーター事業

p17

石巻から「防災」を届ける
グッズ販売事業

p18

会計報告

p19

支援企業一覧

p20

ご支援のお願い

p21





得た強さを、誰かのために ストレスを抱える女性の 自己回復力向上のための人材育成事業

新たなスタートを切った3分野の新人講師が全員集合!!

事業概要

「ストレスを抱える女性の自己回復力向上のための人材育成事業」は、女性の能力がさらに活かされる地域社会につなげることを目指し、ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループの助成を受け、ストレス対処の手法を提供できる人材育成スクールを開講。コーチング・メンタルヘルス・レジリエンス分野の3本立てで講座を行いました。

2年目となる2020年は、1年目で誕生した“コーチング”分野の新人講師8名が石巻市及びその周辺の市町村に住む方々を対象とし、ストレスケアの手法を提供しました。

“メンタルヘルス”“レジリエンス”分野では、NPO法人日本サービスマナー協会、一般社団法人レジリエンスコンサルタント協会の資格取得を目指し、メンタルヘルス10名、レジリエンス8名の受講生全員が新たに新人講師としてのスタートを切りました。



レジリエンスコンサルタント認定講座の様子

今期の成果

- 新人コーチによる講座や相談員などの実施サポート
 - 《新人講師の活動内訳》
 - ・講座実施 3回 21名参加 (その他、学習塾の専任コーチとしても活動)
 - ・相談業務
 - いっしょルーム のべ1,000名
 - やっべすママこども食堂 のべ32名
 - やっべすハウス(シェルター機能をもたせた貸しハウス) 1名
- 認定講座実施
 - ・メンタルヘルスアドバイザー
 - 定員8名のところ、申込49名から面談選考の後、定員10名へ増員し全員合格
 - ・レジリエンスコンサルタント
 - 定員8名のところ、申込10名から面談選考の後、8名が受講し、全員合格
- 新人コーチのフォローアップ
 - 新人コーチのさらなるブラッシュアップのための講座を実施
- 第1回/第2回ネットワーク会議
 - ・新人講師たちのネットワークをつくり、各自の課題共有と相互サポートを目的とした定期的な会合(年2回)を実施
- 地域のストレスチェックアンケート
 - ・地域にすむ18歳以上の成人180名程度を対象にストレスチェックアンケートを実施。それにより地域のストレス傾向を分析、翌年度以降の事業計画に反映させることで、さらなる事業の拡大へとつなげる

今期の主要アウトカム

- ・認定講座アンケートでは、プログラム全体で90%の受講生が「満足/ほぼ満足」「かなり前向きな気持ちになった」と回答した。
- ・新人講師の新たなスタートにより、女性の能力がさらに活かされる地域社会づくりの一歩となった。
- ・受益者側が与益者となったことで、学びの循環につながった。
- ・家庭教育支援学級の講師登録を行い、20名増加。
- ・受講した女性たちが自己のストレスを自ら回復させる手法を学び実践したことにより、以前より安定した日常を送ることができ、家族や周囲の人へより安心した環境を与えることができた。
- ・スクールについて、石巻がまぐ新聞などの多数の新聞・雑誌・地域情報誌なども掲載された。



お世話になった講師の皆さんと、修了証をもって記念撮影

事業概要

女性が視野を広げ「自分らしい生き方」を考えることで、女性の自立と社会参画を推し進め復興まちづくりに繋がることを目指し「地域女性の一步を応援するスクール事業 Gift」として、「スキルアップコース」「インターンシップコース」2つのコースで連続講座を企画・実施しました。

スキルアップコースは、自分がしたいことに向けた「Zoom講座」など4講座。インターンシップコースは、就労にむけた「適職診断」など3講座と、地域のNPO団体や企業での就労体験を行いました。

また、両コース共通講座として、「時短家事講座」「メイク講座」のような実践的なものや、「SDGs講座」「石巻市議との意見交換会」のように地域課題解決や復興まちづくりに関する講座を行い、合計10~11回の講座を開催しました。

各講座後には、地域で活躍する女性起業家の講話を合わせて行い、受講生が「身近な先輩」と出会える機会となりました。



共通講座「時短家事セミナー」では、心にゆとりを持つための時短家事のコツを学びました

今期の成果

- スクールとインターンシップ事業
 - ・スキルアップコースとインターンシップコース2コースのスクールを実施
 - ・A) スキルアップコース 4回(自分がしたい事に向けて役立つ講座)
 - ・B) インターンシップコース 3回
 - (就職に向けての準備講座と、有償インターンシップ体験)
 - ・A・B) 両コース共通の講座 7回
 - ・参加者: スキルアップコース14名
 - インターンシップコース6名 合計20名が修了
 - ・インターンシップで女性を受入するNPOや社会的企業: 3団体, 2企業
 - ・スクール開催に関わった講師: 8名
 - ・スクール開催に関わった地域女性起業家: 12名
 - ・事業報告書の作成: 300冊
 - ・世代や価値観の違う女性同士がスクールを通じてコミュニティを作ることができた。
 - ・自分の今後の目標が定まった。自分を知ることができた。
 - ・様々な講座を受けることで、新しい物事に興味を持つことが出来て視野が広がった。
 - ・インターンシップをすることで、就労のイメージをよりリアルに体験することができた。
 - ・地域ですでに活躍している身近な先輩たちを知り、つながることができた。

今期の主要アウトカム

- ・地域の女性が交流する機会をつくることで、女性活躍を推進する地域づくりの実現の一助となった。
- ・キャリアプラン講座やインターン体験などを通して、子育てや介護、病気の療養をしながらでも家事と仕事等の両立をさせながら働くという選択肢が増えた。
- ・様々な状況にいる女性が、講座や意見交換会などに参加することによって、「女性の力」がエンパワーメントされ、被災地の復興まちづくりに自主的に関わるといった意識が醸成され、地域の今後の経済発展や人材育成につながる。
- ・インターンシップを通じて、被災地の地域課題に取り組むNPOや社会的企業の活動に参画することで、自らが暮らす地域社会のことを深く知り、市民の主体性が高まった。
- ・地域で女性が活躍できる場をつくることで、ジェンダー平等を達成しすべての女性のエンパワーメントを図ることができる地域社会の実現につなげることができた。



創業を目指す方を伴走型で応援する 創業支援事業

寄付で市民活動を支えるイベント（池上彰氏特別講演）

事業概要

石巻市は震災以前より過疎化、少子高齢化問題が深刻な地域であることから、人口減少による市場圧迫などに左右されない自立した形での地方経済圏（創業土壌）の安定化と、産業シーンの新陳代謝を活性化させる「ヒト・モノ・カネ」の循環する基盤を整備することが重要であると考えています。そのため、本事業では、創業希望者や既存の創業者らが時代の変化の速度に合わせて学び続けられる土壌と、彼らが講師として後発の創業者らに学びを提供し続けられる土壌の2つを創出します。



起業相談等を行うスペース

今期の成果

- ・【寄付で市民活動を支えるイベント】池上彰氏講演会「新型コロナウイルスが世界を席巻する今私たちにできることは？」開催
- ・創業、経営等相談対応件数延べ 30件
- ・創業支援WEBサイト「やっぺすBiz」図鑑ページ掲載事業者数 延べ63件

今期の主要アウトカム

- ・個別でプレゼン資料の作成、補助金の申請書の作成をサポートし、補助が決定した。
- ・相談者と税理士等の専門家をお繋ぎすることで、経営の改善や効率化に役立てることができた。



外で働けないママたちのために おうち仕事

新作レクチャーをリモートで実施しました

事業概要

小さな子どもが居る母親は自分のペースで働ける場所がなく、外にもなかなか出られないのが現状です。彼女たちのどんどん閉じこもっていく状況を改善し、また生活再建のための収入を得る機会を作るために当事業をスタートしました。当事業は復興支援を希望する東京、大阪などの企業と共同で、子育て中の女性向けの手仕事を中心とした内職を提供しています。2020年度は（株）イストワール、（一社）rennsa(アズボヌール) から前年度より引き続き委託を受け、手仕事を通して社会と関わるきっかけも提供しています。



リモートでもいつも通り楽しく作業できました

今期の成果

- ・（株）イストワール
マスクチャームアクセサリ製品制作、検品、値札つけ
- ・（一社）rennsa アズボヌールレザーアクセサリ
リング、キーホルダー類、ピアス、ネックレス、ブレスレット制作

今期の主要アウトカム

- ・延べ4名へ内職を依頼
- ・支払い内職賃 ￥182,300（2020年5月～2021年4月まで）
- ・アズボヌール新作レクチャーをオンラインにて実施
- ・内職作業者を講師に作業会を実施



新作のプラネットネックレス



石巻から全国の女性たちへ紡ぎだす物語 Amanecer

2021年新作はマスクホルダーとネックレスを2Wayタイプにした「マスクネックレス」

事業概要

震災後、生活を再建し始めた小さな子どもをもつ母親たちには、育児によるストレス等が更に加わることにより、幼児虐待や育児ノイローゼに陥る可能性が懸念されています。このような問題の解決の為に、母親たちの子どもが居ながらにして収入を得る機会や閉じこもった生活から一歩外へ出られるような場を提供することが必要だと考え、当事業をスタートしました。被災した母親たちが製作するアクセサリーブランドを自団体で運営し、より一層の効率化を図る為、運営サイトの変更、アクセサリデザインを自分たちで行っております。



マスクを外したときはコットンパールネックレスとして

今期の成果

- ・制作者雇用数：2名

今期の主要アウトカム

- ・新商品を3月に展開し、復興へ歩み続けるママたちのストーリーと未来への想いを商品という形で外部へ発信した。



マスクホルダーはマスクの紛失や置く場所に困りません。



妊娠期から子育て期にわたって「いっしょ」に子育てを支援する 石巻市子ども・子育て利用者支援等事業業務

いっしょ issyo えきまへのようす

事業概要

本事業は石巻市より業務委託を受け、2020年7月1日に「いっしょる一む」として石巻市ささえあいセンター内に開館しました。(翌年4月1日より、「いっしょissyoえきまえ」と改称)
現在は、新型コロナウイルス感染症防止のため、人数・時間制限、消毒の徹底を行いながら、継続して開館しております。
いっしょissyoえきまえは妊産婦相談含む相談支援や情報提供、子育てに関する講座を行うとともに、関係機関との顔の見える連絡調整を実施し、子育てに関する不安や悩みを持つ方の精神的負担の軽減を図ることを目的として事業展開しております。また、合わせて遊びのスペースもごございます。大型の遊具や、ボールプール、知育玩具や多くの絵本が設置されており、ご来館して頂いた方の多くが継続して利用しております。
市内に居住する0歳～18歳未満の子ども、子育て中のママ・パパ・祖父母の方(妊娠されている方も含む)ならどなたでも無料でご利用いただけます。



ピクルスが遊びに来てくれました！

今期の成果

- 利用者支援事業
 - ・子育て等に関する相談件数25件(ながら相談を含めない)
 - 地域子育て拠点事業
 - ・子育て及び子育て支援に関する講座開催13回124名参加
 - ・いっしょ えきまえ(遊びのスペース)総来館者数3933名
 - 助産師による産前産後「心とからだのトータルケア推進事業」
 - ・助産師が行う妊産婦相談件数59件
 - ・助産師が行う妊産婦講座開催10回44名参加
- ※いずれも、2020年7月～2021年3月までの数字

今期の主要アウトカム

初年度として、地域の方に子育て世代包括支援センターとして認知、理解を頂くことで、子育ての負担の軽減や子育て中の悩みについて相談できる場所、そして、子育てに係る講座を開催している場所として確立することが出来た。
また、地域子育て拠点として、利用者同士で交流が生まれ、子育て中の孤立を防ぐことが出来ている。実際に利用者からも同様の内容の声を頂いている。



ママたちが羽ばたくコミュニティスペース ママこども食堂

クリスマスイベントにお越し頂いた参加者さんと

事業概要

石巻地域は、震災以降、少子化や貧困問題等、多くの課題が顕在化しており、同時に復興住宅や家族の転勤などでコミュニティが分裂し、孤立しがちで育児にストレスを抱えている母親が多く、育児放棄や虐待などに至る危険性をはらんでいます。

さらに今期はコロナの緊急事態宣言により、家事や育児の負担が増えた母親と、子どものストレスケアが必要となりました。

母親たちが気軽に相談できる機会や、安心して遊べる空間の提供。お弁当を持ち帰りによる家事の負担の軽減や学び・趣味の場の提供することにより、子育て中の母親の孤立を防ぎ、育児・家事ストレスの解消へと繋がります。また、参加者からの声を生で聞くことができる機会でもあるため、隠れている課題をあぶり出すことができ、必要に応じて行政や他団体と連携を取り対応するなど、より子育てしやすい地域、環境の改善に取り組んでいきます。



大山先生の子育て相談会の様子

今期の成果

■ やっぺすママこども食堂開催総回数：153回

- ・ 総参加人数 700名 (大人：318名/子ども：382名)
- ・ うち、子育て相談会同時開催 (63回)
- ・ うち、こども食堂番外編 病後児ミルク室看護師初貝先生の日 (7回)
- ・ うち、こども食堂と組み合わせたワークショップの開催 (全26回)

≪内訳≫

アロマで安心！虫よけスプレー作りの会	2回
世界にひとつの筆文字名前入りポエム	7回
子どもの気質を知る「月」読みの会	8回
オモシロ腸相診断&ママトーク♡	1回
夏の思い出撮影会	8回

※新型コロナウイルス感染症対策のため、時間と人数制限を設け、相談と遊び場、お持ち帰りのお弁当の提供を行いました

■ 石巻圏域こども食堂連絡会議

4/30(木)、7/13(月)、9/14(月)、10/12(月)、11/9(月)、1/12(火)、3/8(月)

■ 日清製粉グループ本社協賛企画

ふれあいキッチン2020年度オンラインパン教室 1回
参加人数 会場6名 ZOOM 4名 合計 10名

今期の主要アウトカム

- ・ こそだて相談会を開催することにより、育児の相談がなかなか出来ないお母さん達が、こそだて相談会の講師に気軽に悩みや心配事を話し、状況によっては専門的なアドバイスを受ける事によって、不安やストレスを解消、軽減出来る傾向にあった。3月に回収したアンケート結果には、「この場所があってよかった」「子どもの成長にあわせて話ができるところがいい」など100%満足の評価を頂いた。
- ・ 子ども食堂参加から行政や弊団体の講座受講に繋がり、母親のエンパワーメントに発展した。
- ・ 遊び場が少ない地域現状において、親子で安心して全身を使って伸び伸びと遊べる環境を提供でき、コロナ禍のストレス緩和にもつながった。
- ・ 石巻地域子ども食堂会議への参加により、地域団体との交流・共有・連携が取れるようになった。
- ・ 子ども食堂の活動が徐々に地域に浸透し、地域住民や婦人会、企業等から食材支援が増え、地域全体で子育てをする土壌づくりに寄与することができた。
- ・ 企業からの野菜ジュースなどの健康食材提供により、参加者によりバランスの良い食事を提供することができた。おさまの野菜嫌いの改善にもなり、腸内環境がよくなったというお声も頂いた。

やっぺす隊がやってくる！ 復興住宅・心の復興事業



遠足の様子

事業概要

石巻市内の復興公営住宅集会所にて、コミュニティ形成、住民の生きがい創出と自信の回復の為に月6-7回程度サロン活動を行いました。今年度はコロナウイルスによる自粛で、心身の健康被害の軽減にも力を入れた活動となりました。自宅再建による孤独を軽減するため、地域や復興住宅という壁を外して交流する収穫祭や遠足も、時期を調整し計画、コロナ感染防止対策を取りながら実施しました。また外部からのニーズと住民のニーズをマッチングしたイベントの企画・運営にはオンラインを使用するなどできる限りのイベントの開催に努めました。住民講師にはスキルアップ講座の受講を促し、インストラクターの資格取得をしました。



収穫祭午前の部芋ほりの様子

今期の成果

- ・ バス遠足2回実施
- ・ 復興支援イベント68回実施参加人数延べ人数 1028名
- ・ 2つの新講座開催 (すずめ踊り・パークゴルフ) 新講師 2名
- ・ クラフトバンドインストラクター取得 3名
- ・ 脳トレドリルの作製、配布 3回 合計100部
- ・ コロナ自粛に伴う課題の制作 3種 (マスクづくり・かご作り・水引結び)
- ・ コロナ自粛期間の電話による傾聴 50回
- ・ 地震発生に伴うこころのケア 30名 (主に一人暮らし)
- ・ 他復興住宅での新イベント開催にともなう相談 1か所
- ・ 老人福祉施設でのイベント依頼による開催 2回

今期の主要アウトカム

- ・ 受益者から新講師2名が誕生し、うち一人が男性の講師なので、今後男性の参加が見込まれる。
- ・ コロナ対策での課題の制作では、参加者間での電話でのやり取りが始まり、「教え合う」ことにより交流が深まった。制作意欲も増え、認知症の予防にもつながっていると参加者の声をいただいている。
- ・ 高齢化による免許の返納で遠足の機会が失われている。脳トレドリルに活動写真を入れることにより、参加意欲が増し、「遠足など自分も参加したい」との声が多く聞かれた。仮設での知り合いを見つけて、懐かしむ様子も見られ、再会を楽しみにしている。
- ・ コロナ自粛の時期は特に電話でゆっくり個人的な話も聞いてもらえて悩みや不安、孤独感の軽減、コロナ鬱の予防につながったとの言葉をいただいている。
- ・ 地震の発生後の安否確認の電話はひとり暮らしの方にとっても感謝され、地震に伴う心細さと不安の軽減になっている。



外部と被災地との支援ニーズをマッチング 石巻復興コーディネート事業

視察の様子

事業概要

無事かえるシリーズは、ナカジマコーポレーションの「かえるのピクルス」を防災商品化し、弊団体はその監修を務めています。弊団体では本商品を開発する段階で約100名の方々に被災時に何が必要だったかをヒアリングしました。食料、ライフライン面、衛生面、精神面、様々な意見を頂きました。また、私たちの経験も反映させながら考察しました。

新作のナップサックは普段から持ち歩くことで、無事かえるシリーズに込められた防災意識を、ビーンドールは隣で見守っていてくれる癒しで安心を感じていただき、災害への不安を少しでも和らげて防災へ取り組めるように考えました。

現在販売している無事かえるフェイスバッグには、皆様ご自身で「災害が起きた時のために何をしておこうか」を考えて頂くことで防災意識の向上が期待できます。

地域の防災訓練では、無事かえるピクルスのかわいらしさを、地域の方々とのコミュニケーションのきっかけにつながることも期待しております。

今後、災害が起きても平時から育まれた【つながり】と【防災意識】が私たちのみならず、大切な隣人をも守り、無事にかえることができることにつながります。

今期の主要アウトカム

- 石巻圏域での企業研修やボランティア活動の受け皿として、またボランティアニーズを持つ石巻圏のNPOや市民活動とマッチングできるハブとして実質的に機能している。
- 当団体ならではのコーディネートとして高い評価を得ている復興住宅での清掃活動は、三越伊勢丹グループ労働組合や大日本印刷(株)、プルデンシャル生命等のボランティアでは活動にリピーターとして参加して下さる方がいる。また、その方たちが他の社員の方に参加を勧めるという循環ができています。
- 資料やファイルを整理し、マニュアル化・共有化を図ることで特定のスタッフ以外も視察案内や当日の業務サポートができるようになった。
- 復興住宅の住民も毎年楽しみにされ、住民とボランティアの心の通い合いができています。
- 企業との連携により、食育に繋がるイベントを開催することができた。
- パン教室を受講した参加者が講師となり、公営住宅の集会所でパン教室を開催することができた。
- クレイアート講座を受けた受講生が、自分でクレイ講座を開催し、コミュニティづくりの機会を作ることができた。

今期の成果

■復興支援活動&視察等の実績

- 復興副大臣視察(7月)
- 国連ユニタール(8月)
- 東雲高校(11月)
- MDRT日本会現地視察(12月)
- 日本女子大学(2月)
- 講演・セミナー・パネラー登壇
- 中央大学中澤ゼミ(8月)
- 東松島市女性団体連絡協議会移動研修会(10月)
- 宮城女子学院大学登壇(12月)
- 柴田町防災対策実践講座(12月)
- 宮城県みやぎの女性活躍推進サポーター養成事業(2月)
- 公開シンポジウム「こころを表現することと仕事や活動をおこすこと」(3月)
- 公開シンポジウム「本の力・文学の力」(3月)
- JWL主催・ベンチャーカフェ東京登壇(3月)
- 「3.11formKANSAI」オンライン登壇(3月)

■企業協働事業

- カゴメ株式会社
トマト苗寄贈(5月)
ベジタブルチェッカー研修会7月
- 日清製粉グループ本社
ふれあいキッチン(1月)
パン教室(3月)
お披露目会(3月)



石巻から「防災」を届ける グッズ販売事業

無事かえるナップサックを通学用に使用しています

事業概要

無事かえるシリーズは、ナカジマコーポレーションの「かえるのピクルス」を防災商品化し、弊団体はその監修を務めています。弊団体では本商品を開発する段階で約100名の方々に被災時に何が必要だったかをヒアリングしました。食料、ライフライン面、衛生面、精神面、様々な意見を頂きました。また、私たちの経験も反映させながら考察しました。

新作のナップサックは普段から持ち歩くことで、無事かえるシリーズに込められた防災意識を、ビーンドールは隣で見守っていてくれる癒しで安心を感じていただき、災害への不安を少しでも和らげて防災へ取り組めるように考えました。

現在販売している無事かえるフェイスバッグには、皆様ご自身で「災害が起きた時のために何をしておこうか」を考えて頂くことで防災意識の向上が期待できます。

地域の防災訓練では、無事かえるピクルスのかわいらしさを、地域の方々とのコミュニケーションのきっかけにつながることも期待しております。

今後、災害が起きても平時から育まれた【つながり】と【防災意識】が私たちのみならず、大切な隣人をも守り、無事にかえることができることにつながります。

今期の成果

・売上: ¥197,304

今期の主要アウトカム

前年度と同様に、石巻市内はもちろん、ECサイト販売による県外購入者に加えて、外国の方にもご購入いただくことができ、また、無事かえるシリーズが停滞する事無く販売できていることから、継続的に地域から世界の範囲で、防災意識の向上とつながりの育成の一助となることになりました。



2014年と2017年に販売したフェイスポシェットをさげたビーンドールです



新作の無事かえるナップサックは運動着も出し入れしやすいちょっと大きめサイズです

石巻復興支援ネットワーク ご支援のお願い



賛助会員になりませんか

やっぺすを応援してくださっている皆様へ

日頃より、やっぺすの活動をご支援いただき誠にありがとうございます。
やっぺすでは年会費制の賛助会員制度を導入しております。

2011年の東日本大震災を機に「地域の復興をみんなでやっぺす！（やりましょう！）」という想いを込め活動を開始したやっぺすは、仮設住宅や公営住宅のコミュニティ支援や、仕事づくり、創業・起業支援、人材育成、女性のエンパワーメントなど、地域の課題解決に向け住民の皆様、応援くださる皆様と共に歩んでまいりました。
今後もやっぺすの活動にご賛同いただけましたら、ぜひ賛助会員へのご登録をお願い申し上げます。
みなさまからお預かりした会費は、活動資金として大切に活用させていただきます。

①賛助会員会費：5000円/年
*Giftつき。(協賛品の内容は変更されることがございます) 会員カードのお渡しと3か月に1度会員様向けにやっぺすの情報が盛りだくさんの『やっぺす通信』をメールにてお送り致します。

②賛助会員会費：3000円/年
*会員カードのお渡しと3か月に1度会員様向けにやっぺすの情報が盛りだくさんの『やっぺす通信』をメールにてお送り致します。

お申込み方法は①団体に来訪いただいたの直接申し込み又は、②代引き対応、③振込にてお支払い(振込み手数料はご負担ください)とさせていただきます。

<やっぺす会員お申込みフォーム>
隣のQRコードよりお申し込み下さい。



活動資金を ご支援ください。

賛助会員制度以外でもご寄付も随時受け付けております。



団体寄付ページ



オンライン寄付サイト Give One

<他行からお振り込み>
金融機関：ゆうちょ銀行 八一八支店
口座：普通口座 2420166
口座名称：特非)石巻復興支援ネットワーク
フリガナ：
トクヒ)イシノマキフッコウシエンネットワーク

<ゆうちょ銀行からお振り込み>
金融機関：ゆうちょ銀行 18140
口座：総合口座 24201661
口座名称：特非)石巻復興支援ネットワーク
フリガナ：
トクヒ)イシノマキフッコウシエンネットワーク



買って石巻を 応援してください。

石巻のハンドメイドアクセサリーや防災リュック、CDを購入して、復興を応援してください。
収益は、石巻の復興の為に使用させていただきます。
QRコードはそれぞれ隣のURLとリンクしております。是非一度ご覧ください。



「ママ」と「社会」をつなぐ ハンドメイドアクセサリー Amanecer

<http://amanecer.ocnk.net/>

ふんわり軽いコットンパールシリーズが大人気。石巻のママたちがひとつひとつ想いを込めて製作しています。



無事かえるシリーズ

<http://bujikaeru.jimdo.com/>

震災の教訓から次の災害に備えるため誕生した親子向けの防災リュックとポシェットです。



このほか、シンガーソングライター石田裕之さんのコラボCD「やっぺす♡石巻」も販売しています。



知って広める。

メールマガジンやフェイスブック、ツイッター等で情報発信をしています。
ぜひ知って広めてください。講演も全国各地で行っていますので、ご依頼をお待ちしています。



Facebook : <https://www.facebook.com/yappesu>



Twitter : @yappesu



法人の方向けに。

当団体では、様々な企業様と協働事業を行っています。CSR活動、研修、視察、被災地における支援活動のコーディネート等を行っていますので、お気軽にお問い合わせください。

tel:0225-23-8588
e-Fax:022-774-1469
info@yappesu.jp

